

1. 科目名 (単位数)	公民科指導法 I (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3442
2. 授業担当教員	荻原 邦昭		SCMP3442
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	<p>公民科の目標は「現代の社会について主体的に考察させ、理解を深め、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」である。</p> <p>本科目では、学習指導要領で示される指導内容についての解説にとどまらず、授業実践事例について学ぶことで、受講生の公民科指導能力の成長を理論と実践の両面から支援することを目指す。</p> <p>さらに、「公共的な空間を作る主体」「他者と協働する倫理的主体」「持続可能な社会づくりの主体」として社会に参画する力を育む中核的な機能を果たすことが期待される今後の公民科のあり方（主権者教育など）についても取り上げる。</p> <p>なお公民科指導法 I では、公民科科目のうち、「公共（現代社会）」に重点を置いて、その内容および指導法について取り上げるものとする。</p>		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導要領改訂の経緯、趣旨、要点及び公民科科目「公共（現代社会）」の基本的性格、目標、内容について理解し、説明することができる。 2. 公共的な空間における基本的原理（民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務等）に関わる事象について理解し、説明することができる。 3. 公民科科目「公共（現代社会）」の教育内容となる現代の諸課題について他者との議論を通して理解を深め考察することができる。 4. 「公共（現代社会）」に関する指導計画、単元指導案、学習指導案を作成することで授業づくりについて学び、公民科の実践課題について考えることができる。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<p>【指導案と模擬授業】 作成された指導案と模擬授業</p> <p>【期末レポートの課題】 □「現代社会の諸課題を具体的に一つ取り上げ、生命、情報、環境のいずれかの視点で考察せよ」 ※1, 000字～1, 200字程度で述べる。</p> <p>【振り返りシート作成】 毎授業のまとめを行い、定期的に提出し、添削を受ける。</p>		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版。(以下、シラバス内ではテキストと呼称する。) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説□公民編』東京書籍</p> <p>【参考書】 1. 日本社会科教育学会編『社会科教育事典』ぎょうせい、2012。 2. 日本公民教育学会編『公民科教育事典』第一学習社、2009。 3. 文部科学省『高等学校公民科用教科書 現代社会』東京書籍。 4. 文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房。</p> <p>【参考資料】 高等学校学習指導要領 (平成 29 年 3 月告示 文部科学省)</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習指導要領改訂の経緯、趣旨、要点及び公民科科目「公共（現代社会）」の基本的性格、目標、内容について理解し、説明することができる。 2. 公共的な空間における基本的原理（民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務等）に関わる事象について理解し、説明することができる。 3. 公民科科目「公共（現代社会）」の教育内容となる現代の諸課題について他者との議論を通して理解を深め考察することができる。 4. 「公共（現代社会）」に関する指導計画、単元指導案、学習指導案を作成することで授業づくりについて学び、公民科の実践課題について考えることができる。 <p>○評定の方法</p> <p>成績評価の規準 1～4 についての達成度を以下の方法により評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各受講生の参加意欲・態度（課題の提出状況も含む）について総合的に評価する。(30%) ・各受講生の授業での発言・共同作業（模擬授業やディスカッションなど）の実態等から総合的に評価する。(30%) ・各受講生の知識理解や思考の深まりについて、作成した指導案・模擬授業の指導内容・レポートから評価する。(40%) 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>「現代社会」は科目設立以来、現代社会の基本的な問題に対する判断力の基礎を養い、それと関連させながら人間としての在り方生き方を考えることを基本的なねらいとしているが、さらに主体的に学習に取り組むための学び方を習得することも大きな特色として掲げられている。そこで本科目を通して、「現代社会」の内容はもちろん、課題の探究方法や社会調査の仕方及び言語活動を踏まえた表現力の育成を学ぶこととする。このため、受講生は次の事柄を遵守することを望む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 緊張感と集中力をもって受講する。 2. 質問、発表を積極的に行い、主体的に取り組む。 3. 欠席、遅刻、早退をしない。 4. 勝手な退室、講義と無関係な振る舞い、私語、居眠り、スマートフォンの操作などを慎む。 <p>教員は次のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義のねらいを明確にし、シラバスに沿って講義する。 2. 声の大きさや話し方など受講者の立場に立って講義する。 3. 討議や発表、模擬授業など受講者が講義に参加できる環境に配慮する。 4. 受講者の質問には誠実に対応する。 		

13. オフィスアワー	授業時間内に通知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	1)オリエンテーション(シラバス確認) 2)公民科教育の意義を考える 課題:「現代社会」に期待されていることは何だろう。	事前学習	テキスト pp.1~5 (改訂の経緯と教科目標)を読む。また、教育実習を経験した受講者は、実習記録など見直し、授業実践がどのように展開されていたか復習しておく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のリーディング・アサインメント(以下 RA と表記:講義内で配布する事前事後学習用ワークシート)に取り組む。
第2回	公民科指導の性質①(歴史的経緯について) 課題:第二次世界大戦後の学習指導要領における公民科の位置づけについて理解する。	事前学習	課題①:教育基本法より、公民科に関する箇所・条文を見つけよう。課題②:戦後に登場した高校社会科はどのような内容であったのかまとめてみよう。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降の RA に取り組む。
第3回	公民科指導の性質②(現行学習指導要領について) 課題:教育内容についての理解(a)学習指導要領・教科の位置付け・現代社会の目標・内容について理解する。	事前学習	教科の目標、科目現代社会の目標、内容についてテキスト該当ページを読んで項目のまとめをする。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降の RA に取り組む。
第4回	1)公民科指導の性質③(現行学習指導要領について) 課題:教育内容についての理解(b)指導計画の作成と指導上の配慮事項について整理する。 2)模擬授業の構想①担当分野を選定する。	事前学習	各々、授業で取り上げる分野を考え、どのような授業をしてみたいか、グループ検討会で意見交換できるよう下調べしておくこと。その際、説明資料が充実していれば、自身の提案する授業案が採択されやすくなることもある。
		事後学習	各グループで作業スケジュールを策定し、各々の担当の業務について取り組みを始める。
第5回	1)公民科における学習指導案と授業計画 課題:策定の実際について事例指導案を手がかりにポイントを確認する。 2)模擬授業の構想②授業教材の開発	事前学習	第4回の決定事項をもとに、グループ検討会で意見交換できるよう準備する。
		事後学習	各グループで作業スケジュールに従い、各々の担当の業務について取り組みを進める。
第6回	現代社会の取り扱う「私たちの生きる社会」(学習内容の実際と教材研究の方向性を探究する) 課題:授業事例の検討をする。	事前学習	講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降の RA に取り組む。
第7回	現代社会の取り扱う「現代社会と人間としての在り方生き方」(学習内容の実際と教材研究の方向性を探究する) 課題:授業事例の検討をする。	事前学習	講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降の RA に取り組む。
第8回	現代社会の取り扱う「共に生きる社会を目指して」(学習内容の実際と教材研究の方向性を探究する) 課題:授業事例の検討をする。	事前学習	講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降の RA に取り組む。
第9回	1)公民科指導の性質④(現行学習指導要領について) 課題:教育内容についての理解(c)公民科の「接続」について(生活科から社会科へ、社会科から公民科へ、カリキュラムの考え方) 2)模擬授業の構想③授業教材の開発	事前学習	第5回の決定事項をもとに、グループ検討会で意見交換できるよう準備する。
		事後学習	各グループで作業スケジュールに従い、各々の担当の業務について取り組みを進める。 本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降の RA に取り組む。
第10回	1)公民科指導の性質⑤(現行学習指導要領および次期学習指導要領について) 課題:教育内容についての理解(d)公民科における評価の手法(「評価」の考え方、方法論) 2)模擬授業の構想④テーマ指導案構想発表※学外発表実施の場合は発表予行練習としてプレゼンテーションの内容と資料の検討を行う。	事前学習	自グループの授業構想について見直し、改善の余地はないか検討しておく。
		事後学習	各グループで作業スケジュールに従い、各々の担当の業務について取り組みを進める。 本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降の RA に取り組む。

第11回	1) 公民科指導の性質⑥ (現行学習指導要領および次期学習指導要領について) 課題: 公民科における持続可能な開発のための教育 実践の在り方 2) 模擬授業の構想⑤指導案構想発表を受けての授業改善 (指導案を中心に)	事前学習	RAにより持続可能な開発のための教育の考え方について整理する。
		事後学習	各グループで作業スケジュールに従い、各々の担当の業務について取り組みを進める。 本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第12回	1) 公民科指導の性質⑦ (現行学習指導要領および次期学習指導要領について) 課題: 公民科における主権者教育の在り方およびICT活用の実際 2) 模擬授業の構想⑥指導案構想発表を受けての授業改善 (使用教材を中心に)	事前学習	RAにより18歳選挙権を中心に主権者教育の課題について考える。
		事後学習	各グループで作業スケジュールに従い、各々の担当の業務について取り組みを進める。 本時の学習を振り返り学習内容の定着を図る。次時以降のRAに取り組む。
第13回	授業プレゼンテーション (学生発表①)・検討会 「青年期と自己の形成」「個人の尊重と法の支配」	事前学習	発表グループの学生は授業準備をする。生徒役として発表を聞くグループは講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	発表グループの学生は意見メモ(生徒役に記録をとらせるもの)を手がかりに改善点など振り返る。生徒役として発表を聞くグループは意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自グループの授業案への改善点として検討してみる。
第14回	授業プレゼンテーション (学生発表②)・検討会 「現代の民主政治と政治参加の意義」「現代の経済社会と経済活動の在り方」	事前学習	発表グループの学生は授業準備をする。生徒役として発表を聞くグループは講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	発表グループの学生は意見メモ(生徒役に記録をとらせるもの)を手がかりに改善点など振り返る。生徒役として発表を聞くグループは意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自グループの授業案への改善点として検討してみる。
第15回	授業プレゼンテーション (学生発表③)・検討会 「国際社会の動向と日本の果たすべき役割」 ※授業評価 (本講義についての学生評価)	事前学習	発表グループの学生は授業準備をする。生徒役として発表を聞くグループは講義内で確認する「授業分析のポイント」を見直しておく。
		事後学習	発表グループの学生は意見メモ(生徒役に記録をとらせるもの)を手がかりに改善点など振り返る。生徒役として発表を聞くグループは意見交換会で取り上げられた課題について振り返り、または自グループの授業案への改善点として検討してみる。